



小城市立歴史資料館 ✿ 中林梧竹記念館だより

本野克彦コレクション第1期展を 開催します

故本野克彦氏は、少年時代を小城で過ごされた縁で、中林梧竹など小城にゆかりのある作品を多数寄贈・寄託され、当記念館の名誉館長を務められました。

ご遺族もその遺志を継ぎ、寄託作品を寄贈されました。今回は寄贈された作品を中心に展示します。

◆期間 3月18日(土)～5月28日(日)
(3月18日の一般入場は11時～)

◆場所 中林梧竹記念館 常設展示室、
歴史資料館 企画展示室

◆観覧料 200円(学生以下無料)



▲本野克彦氏寄贈作品

令和4年度「むかしの道具にみる くらしのうつりかわり展」を開催中

昔の生活道具を展示し現代との生活の違いについて考えるくらしのうつりかわり展を開催中です。

◆期間 ～2月26日(日)

◆場所 歴史資料館 企画展示室

◆観覧料 無料



▲小学生の見学の様子

おぎの歴史 ✿ 探検隊

異形の石鳥居(その5)

笠石部の両端が丸味を持つ形が全国的には稀有な存在の「肥前鳥居」ですが、江戸時代に藩主となる鍋島家との関係は深かったようです。肥前鳥居の出現は安土桃山時代で、紀年銘が最も古い白石町稲佐神社のもので、天正13(1585)年です。肥前国の戦国大名であった龍造寺隆信が島原の沖田畷の戦いで戦死したのが天正12(1584)年ですので、その1年後の建立です。「五州二島の太守」を名乗り北部九州で一大勢力を誇った龍造寺ですが、隆信死後は親族の鍋島家へ次第に実権が移っていきます。肥前鳥居は龍造寺が実権を失う中で建立が盛んになっていくのですが、鍋島家の関わりが明確になるのは慶長2(1597)年に小城市牛尾神社に建立した鳥居です。この年は慶長の役が始まった年で、翌年には豊臣秀吉が亡くなる年で

す。鳥居の銘文には「国主大檀那鍋島信濃守豊臣勝茂朝臣」とあるので、直茂の長男の勝茂が秀吉から実質的に肥前国の領主として扱われていたことがうかがえます。

この鳥居の特徴としては天正期のものより大型化し始めたことや、造りが細身に变化したことが挙げられます。また東石の前に額がつき、印象としては洗練されたと言えるかもしれません。建立したのは再度の朝鮮出兵が行われた時ですので、鍋島家としては戦勝祈願であったと考えられます。(続) 小城市郷土史研究会/著



▲石造肥前鳥居(牛尾神社)

◆開館時間 9時～17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132